



打瀬小学校横の草地でトンボを捕まえた瞬間。この原っぱではトンボ、チョウ、バッタが多く捕れた。虫取りをしていると、校庭で遊んでいた子どもも集まってきて、一緒に騒ぎだす。ここは打瀬の昆虫取りのメッカだ。



めざせ未来の昆虫博士

子どもたちは虫取りが大好きだ。コンクリートジャングルのベイタウンでも夏休み前後には虫取り網と虫かごを持った子どもたちが駆け回る。自然が少ないので、せいぜいトンボやバッタくらいだろうと思って虫かごを覗いてみると、黄金虫やセミを捕まえている子もいる。

いったいベイタウンではどのくらいの昆虫が棲んでいるのだろうか。子どもたちと調べたらきっと面白い研究ができるかもしれない。そんな思いつきから「夏休み昆虫採集」のイベントが生まれた。主催したのはエコパークをつくる会(会長:小川かほるさん)。同会は、海浜打瀬小学校横の緑地に市民主導の自然公園をつくることを目指して活動しているが、会の発足のきっかけは「都市型空間の中でも子どもたちを自然とのふれあいの中で育てたい」との声からだ。それなら子どもと昆虫が結びつく虫取りイベントは会の活動としてもふさわしい。うまくゆけば子どもたちの夏休み自由研究のサポートにもなり、理科好きの子どもを育てることに結びつくかもしれない。そんな皮算用も会にはあったようだ。

7/28の当日、会場となった10番街集会室には50人もの親子が集まった。子どもたちのお目当てのひとつは本物の

昆虫博士に出会えること。この日は県中央博物館から「斉藤先生(ご夫妻)」にご指導に参加していただいた。奥様の斉藤明子先生のご専門は「カミキリムシ」。正真正銘の昆虫博士だ。

まず先生から昆虫採集の道具や使い方、標本のつくり方などを指導していただく。大型のネット、虫を入れる三角紙、捕らえた虫をその場で殺す殺虫ピン、そして昆虫採集に定番の虫かごは、捉えた昆虫があばれて形を壊すので使わない。いつもの「虫取り」が、博士の手で全く違った科学的な「昆虫採集」に変化することに子どもたちは目をかがやかせていた。

先生のお話のあと、子どもたちが普段の虫取りでよく行く、「昆虫がたくさん居るポイント」を発表してもらい、そのポイント毎にグループで分かれて採集することにした。子どもたちが挙げたのは「打瀬小学校横の草地」、「打瀬中学校横の空き地」、「赤玉青玉公園横の草地」、「二丁目公園」、「海浜幕張公園」そして「10番街の中庭」の6カ所。それぞれ環境がちがう、面白い結果が出そう。早速希望者ごとに5~10人のグループでそれぞれのポイントへ向かった。

「打瀬小学校横の草地」と「二丁目公園」

のグループでは昆虫博士も実際に昆虫取りを行った。子どもたちはトンボを見つけては上からネットをかぶせて捕まえようとするが、先生は水平方向にサッとすくって捕まえる。この方がはるかに捕まえやすいし、捕獲後の標本づくりに虫を傷めないのでもいい。虫の生態を知った捕獲の方法は、子どもたちにもいい刺激を与えたようだ。(次ページへ)



▲やっと捕まえたバッタを二人がかりで虫かごに移す。傷つけないように移すには持ち方にもコツが必要だ(写真上)。近代的な街並みの中での昆虫採集。アンバランスだが、ベイタウンならではの風景だ。ここではアゲハチョウが捕まっていた(写真下)。



◀本物の標本用具(展翅板)を使って捕まえたばかりのチョウを標本にする昆虫博士(写真左)。標本の作り方を興味津々で見つめる子どもたち(写真右)。

約1.5時間の野外での昆虫採集の後、10番街集会室に戻ってグループ毎の採集結果を集計した。まず最初に捕まえた昆虫を図鑑で見ても名前を調べ、グループ毎に発表する。同じように見えるトンボやチョウでも小さなところで違っていたりで、名前の特定は思ったより難しい。名前を発表するとすぐ2人の昆虫博士が実物を見て調べてくれる。図鑑では特定できなかった虫も、たちどころにその名前が分かる昆虫博士のすごさには、子どもたちだけでなく参加者全員が驚いていた。ペイタウンは人工の市街地なので昆虫に限らず多様な生物が棲んでいるとは言えないが、それでも当初想像したよりも遥かに多く、35種類の昆虫が採取できた（右表参照）。

希少種発見！



打瀬中学校周りの草地へ行ったグループは珍しい虫を見つけた。トンボのようだが、羽根がチョウに似ている。うまく捕まえて持ち帰り先生に聞くと、「チョウトンボ」。千葉県絶滅危惧種にも入られているこの虫は、東京湾岸ではほとんど絶滅したと言われていたが、最近湾岸にできた人工のビオトープで増え、少しずつ見られるようになってきたという。繁殖の状況やルートを辿って分布を探ると面白い研究になりそうだ。この発見は近く専門誌にも掲載予定。

◀捕獲された「チョウトンボ」の正式標本。採集者の名前、日時、場所を書いたラベルがつけられている。

当日採集された昆虫の名前

《打瀬小学校横の原っぱ》

シオカラトンボ（オス・メス）、ウスバキトンボ、モンキチョウ、ルリシジミ、ショウリョウバッタ、クサキリ、クルマバッタモドキ、エンマコオロギ、オンブバッタ、コバネイナゴ

《赤玉・青玉公園》

シオカラトンボ（メス）、アジイトトンボ（メス）、ルリシジミ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ショウリョウバッタ（オス）、エンマコオロギ、ナガメの幼虫

《打瀬2丁目公園》

シオカラトンボ、ウスバキトンボ、ナツアカネ、ショウリョウバッタ（オス）、エンマコオロギ、ナガメ、アリ、ガの一種、ゴミムシの一種、ゾウムシの一種

《海浜公園》

シオカラトンボ（オス・メス）、ナツアカネ、ショウリョウバッタ、ジョロウグモ（昆虫ではない）

《10番街の中庭》

シオカラトンボ（オス）、ウスバキトンボ、ノシメトンボ、アオスジアゲハ、モンシロチョウ、アブラゼミとぬけがら

《打瀬中学校》

シオカラトンボ（オス・メス）、チョウトンボ、ショウリョウバッタ、ヤマトマダラバッタ、カンタン（メス）、チャバネアオカメムシ、ハエトリグモ、コモリグモ、ダンゴムシ、（ムシコブ）、（アシナガバチの巣）

《18番街横の空き地》（主催者調査）

シオカラトンボ（オス・メス）、ナミアゲハ、ショウリョウバッタの幼虫、エンマコオロギ、カンタン（オス）、セアカヒラタゴミムシ、ヒョウタンゴミムシ、スナゴミムシダマシ

打瀬の幼稚園には、いつ、どんなところが？

打瀬小学校のとなりで8月から保育園の建設工事がいよいよ始まりました。そうなるに気になるのが、ペイタウンの開発を進める千葉県企業庁がそのとなりに誘致を図ろうとしている幼稚園のこと。いつ、どんな幼稚園が出てくるのかー確実なことはまだ明らかではありませんが、関係者を取材する中で、いま、どんな状況なのか、見えてきました。

千葉県企業庁が幼稚園を誘致しようとしているのは、打瀬小学校の向かい、学校が畑として利用している空き地の一部約2000m²です。ペイタウンの事業計画ですでに、予定地を分譲して幼稚園を整備する考えを明らかにしています。

計画はまだ明らかではありませんが、ペイタウンが人口1万人を超えるまでに成長したこともあって、「保育園の次はそろそろ幼稚園では」との期待が高まって不思議はありません。1万人と言えば、このあたりのニュータウンで幼稚園1カ所を想定してきた人口規模に相当します。

では、幼稚園の誘致は、いま、どんな状況にあるのでしょうか。

幼稚園を経営しようとする者は企業庁から予定地を買って、そこに建物をつくることになります。土地は千葉市から無償で借り、建物は半分くらいを補助金でまかなう、福祉ゆえの恵まれた条件の下で整備で

きる保育園とは、投資額が大きく異なります。幼稚園側にとってペイタウン進出のネックはこうした投資規模の大きさです。

企業庁はこれまで正式な分譲条件を示したことはありませんが、そこは土地売買を巡ることの常として、さまざまな情報が飛び交うもの。最近では、分譲から賃貸への変更を思わせる声も幼稚園の間から聞こえてきます。いわく「最初に支払う権利金が



高い」「将来園児が減っても一定の地代を払い続けるのはつらい」。どちらにしても、投資額の大きさに二の足を踏んでいるのは同じです。

そうは言っても、すべての幼稚園が進出への意欲を持っていないわけではありません。周囲の幼稚園から進出意欲が高いとみ

られている美浜区内のある幼稚園の園長は、「条件次第では検討課題になる」と、周囲の見方を否定しません。条件さえ整えばペイタウンに出てくる場所はあるわけです。

どんな幼稚園が出てくるかはこうした事情からまだはっきりしません。ただひとつ間違いないのは、出てくることのできる幼稚園はペイタウンですでになじみのある地元の園ということです。

企業庁によれば、誘致条件を示す交渉窓口としてまずは、市内の幼稚園で組織する社団法人千葉市幼稚園協会を想定しているといいます。しかも、私立幼稚園の設置には県知事の認可が必要で、認可にあたっては「地元の意向、つまりは協会の意向も勘案する」（県学事課）とのことです。地元の幼稚園が首をタテにふらない限り、進出は実現しない仕組みです。近くの幼稚園がペイタウンを「市場」として見込んでいる現実がある以上、地元以外からの進出はあり得ません。

気になるのは、企業庁がいつ幼稚園協会に具体的な条件を示すのか、その時期です。関係者の中には「9月にも示してくるのでは」との見方も出ていますが、企業庁でペイタウンの整備を担当する幕張新都心整備課住宅地区建設室の松尾玄三室長は、「事業推進に向けていま努力しているところ」と多くを語りません。いまからでは来春開園の線はあり得ませんが、その翌年春の開園に期待をかけることができるか否かは、企業庁が条件を示す時期次第と言えるでしょう。

【茂木】

打瀬小学校 地域交流特別クラブの存続決まる

去る 8/4 (土)、打瀬小学校で「地域交流特別クラブ」の今後の運営について、学校、打瀬の会（打瀬小学校の PTA 組織）と地域住民を交えた話し合いがおこなわれました。地域交流特別クラブは、ペイタウンに住む私たち住民が打瀬小学校で子どもたちを前に授業を行うクラブです。毎年学期に 1 回、土曜日の午前中に 4 年生以上の児童を対象に行われてきました。クラブでは 15 以上の講座が同時に開催され、これまで「元ゼロ戦パイロットの飛行機の話」「竹トンボ工作教室」「グランドゴルフ」「ハンゲル語で自分の名前を書こう」「折り紙教室」「将棋教室」など、様々な講座が行われました。

同様のクラブや授業はここ数年各地の小学校で行われていますが、打瀬小学校の地域交流特別クラブの特色のひとつは、地域の住民がクラブの運営にかかわっていることです。小学校側の担当の先生とともにプロジェクトと呼ばれる運営委員会をつくり、住民側の委員は講師集めや講師との交渉、クラブの準備や記録を、また学校側は、子どもたちの希望講座の募集とクラス分け、教室の割り当て、当日の安全管理などを分担して行ってきました。また受付と講師への接待など当日の運営には打瀬の会も協力しています。

今回の話し合いの焦点は 2 つでした。まず、

来年度からの学校週休二日制の実施により、休日となる土曜日開催を原則としてきたクラブは継続開催できるか。また存続する場合、住民の特別クラブ運営への参加の方法をどうするか、ということです。

ひとつ目の特別クラブの存続について、昨年度に行われた話し合いでは、土曜日以外では授業として時間が確保できないとの理由でクラブ廃止の方向が学校側から示されていましたが、その後行った父兄および児童へのアンケートの結果、存続を希望する意見が大多数を占めたため再検討し、土曜日以外の平日に授業時間を確保することで存続させることが今回の話し合いで学校側から示されました。

ふたつ目の住民の運営への参加について



は、保護者である打瀬の会とともに、保護者以外の地域の住民もこのクラブの運営に積極的に関わることが確認されました。住民の参加は、来年度に予定されるコミュニティコアでの市民講座の開設や、打瀬中学校で同じように住民が講師になって開く「AT 講座」とも関連し、ペイタウン内で教育講座の核となる組織を育てるためにも必要なことだと思われる。

本年度の地域交流特別クラブは 2 学期と 3 学期にそれぞれ 1 回が開催される予定です。また、同クラブへの講師募集が近々学校便り (P.I.C.D.) 等を通して行われる予定です。是非多くの方のご参加をお願いします。【松村】



▲昨年 2/17 開催された地域交流特別クラブ「将棋教室」で指導をする講師の椎名さん。
▲同じく 2/17、「ロープの結び方」を指導する小畑さん。小畑さんはこの他にも「刃物の研ぎ方」「竹細工」などの講座で毎回特別クラブに参加している。

あなたのマナー、大丈夫？ — 駐車・駐輪マナー編

「入れ物一流・マナー三流」— 編集局の某氏が常々ペイタウン住民を評して口にする言葉だ。ペイタウンフォーラムなど、住民活動ではすばらしい一面を発揮し、ここに住んでいることを誇らしい気持ちにさせてくれるペイタウン住民諸氏であるが、はたと足元を見ると、「恥ずかしい」と思われることが多々ある。迷惑駐車、ポイ捨てタバコ、ゴミ捨てルール、等々。ここでは、街での気になる所をスナップしてみた。まずは、駐車・駐輪編だ。あなたのマナーは大丈夫ですか？【金】



▲バスの運転手一度やってみる？



▲海浜公園駐輪場を通勤用にちょっと拝借。確かに、ここに停めればタダですが…



▲堂々の歩道内駐車。言うことありません。

▲交差点内駐車。立派な交通違反です。ハイ



▲企業庁駐車場内の自転車の墓場

打瀬小学校が開校して間もない頃、ひとりの男性が学校を訪ねてきた。横浜の小学校で校長を務め、今は退職してベイタウンに住んでいるというその男性は、自分の持っている特技や子どもたちへの愛情を打瀬小学校でも役立てて欲しい、と初代校長の溜先生に相談した。地域に開かれた学校を目指し、その具体的な方策を探っていた溜校長はすぐにこの申し

鎌田 繁さん (4 番街在住)

出を受け、9月のプール最後の日に「古式泳法」の教室を開いた。講師はもちろんこの男性。その後、この男性の講座は「紙トンボづくり」や「唱歌」と幅広い分野に拡がり、開校初年度で児童数の少なかった打瀬小学校の人気科目になった。子どもたちの笑顔と講師の男性の満足感。これを見て溜校長は地域にはまだまだこんな方がいるにちがいないと直感した。打瀬小学校の特色のひとつ「地域交流特別クラブ」はこうして始まった。

ベイタウンの古い住民なら誰でも気付くだろう。この男性は4番街にお住まいの鎌田繁さんだ。

こんな話もある。鎌田さんが入居して最初の年の夏休みの初日、4、5人の子どもたちが早朝から4番街前の赤玉青玉公園でラジオ体操のカードを持って所在なげにしていた。だが、誰も出てくる大人はいない。子どもたちは仕方なく家に帰る。同じ光景が明るく日も見られた。「見るに見かねた」鎌田さんは子どもたちに声をかけ、夏休み後半から4番街内の中庭を使ってラジオ体操会を開いた。翌年からは打瀬小学校の校庭に会場を移したラジオ体操会は、今年も



夏休みの20日間行われた。今では多い日には300人もの子どもが鎌田さんの押すスタンプを楽しみに打瀬小学校の校庭に集まる。

意外なことだが、この街に越して来る前は鎌田さんはそれほど積極的に外で活動する人ではなかったという。鎌田さんがベイタウンに来たのは、退職後お子さんの近くで住みたいという、いわば老後を考えてのこと。特に新しい街で積極的に社会活動をしたいという目的を持ってのことではなかったという。しかし住んでみると、この街には行動を束縛するものがない。古い町につきものの上下関係や習慣がなく、「古いしきたりを気にせずに、楽しいことが色々できる」。鎌田さんにはこの街は「真っ白なキャンパスに自由な絵を描ける」街となった。

「この街に住んで、人生が変わりました」と言う鎌田さん、今年の夏休みもラジオ体操会の他に、打瀬小学校プールを使用して行われたプール開放で、休む間もない毎日だった。子どもの人口が増え、今年は160人もが参加する日もあったプール開放は、来年は新しい海浜打瀬小学校のプールを使って行われる。秋からはそのための準備で忙しくなる。

【松村】

ベイタウン お店物語 6 (1 番街)

ヴィレッジヴァンガード MS (エムズ)

ベイタウンの入村式から1カ月後に開店した草分けのお店です。かつて1～6番街だけで暗闇に包まれていた頃（オーバー？）、夜帰ってくると、このお店の明かりが見えてきてホッとした経験のある方も多いでしょう。開店当初は、意識して店内を明るくして住民のランドマーク的役割を果たしてくださっていたそうです。

写真は武田さん（左）とスタッフの吉村さん（12番街）

ユニークなディスプレイで、まわりからは雑貨屋と思われがちですが、会社としての書店歴は30年。学習参考書や経済書がないかわりに、趣味やライフスタイルに特化した本や雑貨が並べられており、特に自動車関連の本にいたってはその内容の濃さは県内でも1位2位を争うほど。また、ジョン・レノン好きの社長の武田主税さんのこだわりでもあるビートルズを筆頭に、60's、70'sのロックやジャズのCD等も、マニアックな品揃えで県外からもお客様が訪れます。雑貨もコレクターズアイテムから「なんだこれは！」というもののまで、「遊びごころ」と「ノスタルジー」が混在した不思議ワールドです。

昼間は子どもを連れた若いお母さん、土・日曜日はカップルや友だち同士で訪れることが多く、特にカップルの場合、彼氏が車や音楽のコーナーを見ている間、彼女が雑誌や文芸書が見られるよう品揃えにも工夫を凝らしています。

「狭いスペースのため、どうしても偏ったセレクションになりがちですが、本はすべて社員がチョイスしたもの。また、置いていないものについては取り寄せの注文にきちんと対応して、いろいろなおお客様のニーズにも応えられるようにしています」（武田主税さん）

この6月から商店会長になった武田さんは江戸時代から続く生粋の幕張育ち。お祖父さんが海苔を採っていた漁業のまちから一転、未知数の魅力をもったこの街に対する思い入れは強く、ベイタウンの10年後20年後を見据

えて、今から自分たちにできることを少しずつでもやっていきたいと語ります。たとえば、幕張レーベルのCDを出したり、幕張を題材にした小説を出版したり、武田さんのコネを使ってビートルズのイベントを開催したり…。

「商売は農業と同じですから、種蒔きをしないと、街も店も発展していかない」が特論。ただ、住むだけの場所から「ふるさと」へ、ただ景観の美しい街から人の体温が感じられるまちへ。現在、会長になっての初仕事とも言える「秋祭り」の準備に自分の思いをかたちにしようと忙しい日々を過ごしています。



吉村さんの作品がポストカードに



●開店当初からのロングセラー

「ティファニーのテーブルマナー」（鹿島出版社）

NYの本店で買い物をするともらえる小冊子を和訳したもので、ギフトとして贈る人も多い。

「ブルータス カーサ」（マガジンハウス）

インテリアの雑誌でバックナンバーを常時在庫（品切れもあり）。集合住宅特集でパティオスが紹介されたときは売れた！

「風の谷のナウシカ」（徳間書店）

原作はコミックですが、当店では最も安価で読者層の厚い哲学書としておすすめしたい。

■ヴィレッジヴァンガード MS (エムズ)

TEL.043-211-0309 営業時間/10:00～23:00

【取材 / 佐藤】

シニアクラブの憩いの場

“オアシス” OPEN!!

17番街に、ギャラリーキキがOPENしたのは8月18日。そのギャラリーキキの中に、9月2日(日)、ベイトウンシニアクラブの憩いと交流の場“オアシス”が誕生します。

そこで、なぜギャラリーキキに“オアシス”が誕生することになったのかなど、シニアクラブの砂原会長、自治会連合会伊藤副会長と、キキのオーナー山根貴以子さんにお話を伺ってきました。

「シニアクラブでは、かねがねシニアの人たちが気軽に交流できる“ふれあいの場”を街の中に確保したいと行政に働きかけていたのですが、なかなかよい方法がなく考えあぐねていました。そんな中、シニアクラブのメンバーであり役員でもある山根治仁さんの『ベイトウンでギャラリーを開くので、空きスペースをシニアの交流の場として無料で使ってください』というご好意が出発地点になり、幕張シティや三井不動産のご協力、シニアクラブの人たちの善意で設備の方も整い、いよいよ9月2日に“オアシス”がオープンすることになったのです。こんな風に“好意と善意”から始まった“オアシス”ですが、お世話になった方々に少しでも恩返しをしたい(≡せめて光熱費くらいは納めたい)と思い、いろいろな教室——例えばパソコン教室、シャドーボックス(手工芸のひとつ)や生け花教室なども考えています。当面は、シニアクラブとボランティアサークルの活動と憩いの場ですが、そのうち『シニアのオアシス』から、『街のオアシスに』なり、いろいろな年代の人が肩の力を抜いて交流できる場所になる…というのが理想です。楽しい活動の案が浮かんだら、どんどんお知らせください」(※砂原さん、伊藤さんのお話を要約しました)。

「8月18日のギャラリーキキのオープニングパーティには、只今開催中の“大野剛正・シモネッティ展”の大野剛正さんをはじめ、約200人の方たちが来て下さいました。こんなにたくさんの方々に来ていただけたのも、パンフレットを配って頂いたり、お友達を誘ってきて下さったシニアクラブのマンパワーのおかげだと思って感謝

しています。また、オープンしたばかりですが、三歳の男の子の常連さんが出来たのですよ。余程絵が好きなようで、毎日お母さんをひっぱって来て、絵を見ているんです。子どもたちにとっても“人や絵との出会い体験の場”になってくれると嬉しいですね」(山根貴以子さん)。

台風の日にギャラリーキキに伺ったのですが、伊藤さんも砂原さんもすぐに駆けつけて下さり、三人の熱いお話から(これから、このギャラリーキキと“オアシス”が共に歩む事で、ここが絵や音楽などさまざまな文化の発信地であるとともに、交流、熟成、発展の場になり得る)と思い、嬉しくなった取材でした。

【浜田】

※ベイトウンシニアクラブ“オアシス”連絡先 213-0690



シニアクラブの会報「オアシス通信」も第1号から揃えてあります。

◀ギャラリーキキ正面
▼オープンを祝うシニアクラブのメンバー



『アジアの風 2001』にベイトウン在住モデルが登場

本誌7月号でも募集したファッションショー「アジアの風 2001」のモデル一般公募でベイトウン在住の方がモデルとして採用された。ショーはこの方を含め30名の一般モデルが出演して、9/26(水)、午後6:30より幕張メッセイベントホールにて開催される。

神田外語大学 昨年に続いて聴講生募集

神田外語大学では現在平成13年度後期科目の聴講生を募集している。今までの4学科(英米語・中国語・スペイン語・韓国語)に加え、今年度からは国際コミュニケーション学科と国際言語文化学科が開設され、タイ語・インドネシア語・ベトナム語・ポルトガル語・アラビア語などを学ぶことができる。また、図書館や最新のパソコンを備えたメディアプラザも利用可能。

今期から、興味ある科目を一度受けてみてから申し込みを決定できる「聴講トライアル制度」も開設された。聴講トライアルの申し込み期限は9/8(土)まで。詳細は神田外語大学 教務Ⅱ課 聴講生担当
TEL:043-273-1320/FAX:043-273-1197
e-mail:chokousei@kanda.kuis.ac.jp
まで。

夏祭り「和太鼓と花火を楽しむ」開催

去る8/4(土)、青少年育成委員会の主催により、打瀬二丁目公園を会場に夏祭りが開催された。祭りには夏休みを楽しむ親子連れや浴衣姿の小中学生が大勢集まり、和太鼓の試し打ちと花火を楽しんだ。中学三年生にはこの祭りが受験モードへのターニングポイントとか。



コアのピアノを選定する会

コミュニティコア研究会では下記日程で「コアのピアノを選定する会」を開催する。内容は、住民によるプレゼンテーションを中

心に「東京・千葉周辺の小ホールにはどんなピアノが導入されているか」「コアのホールではどのような音楽活動が想定されるか」「幕張一帯の音楽状況とコアの役割」などについて報告し、意見を交換する予定。

日時:9月8日(土曜日)午後2時~4時
場所:グランパティオス公園西の街集會室

夏休み集中パトロール

去る7/21~8/29の間、毎週水曜日午後6:00~7:00と土曜日午後9:00~10:00、青少年育成委員会主催で夏休み集中パトロールが行われた。パトロールには打瀬の会、パティオスの会他、関心のある住民が参加し、小中学校や公園、コンビニ周辺など毎回3~4コースを設定して見回りを行った。

夏休み 昆虫と植物の採集観察会

幕張ベイトウンにエコパークをつくる会は夏休み企画として「昆虫採集(7/28)」と「植物採集(8/11)」の会を開催した(昆虫採集は本号1ページにも記事)。植物採集は県中央博物館の協力で川名先生をお招きし、ベイトウン周辺の草地で雑草の採集と観察を行い、予想以上の植物種が子どもたちの手で採集された。エコパークをつくる会では昆虫採集と同様、この結果も記録し、来年以降の植生(分布)調査につなげたいという。この観察会の結果は2番街掲示板に。

コミュニティコアの愛称募集

来年4月オープン予定のコミュニティコアの愛称を募集しています。

官製葉書に愛称1点、命名理由、住所氏名、年令（〇〇歳代と記入）、性別、電話番号を明記し、9月14日（消印有効）までに、〒260-8730 千葉市中央区問屋町1丁目35 千葉市教育委員会生涯学習振興課管理課宛にお送りください。

問い合わせ先：TEL:245-5953 生涯学習振興課

海浜打瀬小学校 運動会

日時：9/30（日曜日）

場所：海浜打瀬小学校 校庭

打瀬中学校 体育祭

日時：9/8（日曜日）、午前9時10分 競技開始

場所：打瀬中学校グラウンド

昨年、パティオスの会主催で行われた「キックターゲット」に続き、今年も一般からの参加種目が用意される模様。中学生に勝てるか？

一変貌する副都心一

オーバルコート大崎ビュープラザ（東京都品川区）

大崎は、山手線で東京まで14分、渋谷まで8分とたいへん恵まれた立地であり、都内各エリアへのアクセスに非常に便利な街です。

もともと工場地帯という印象の強かったこのエリアが大きく変貌するきっかけとなったのが、昭和62年に誕生した「大崎ニューシティ」です。

この「大崎ニューシティ」は、オフィス、ホテル、スーパーマーケットに加え、美術館、病院などからなり、地域住民の生活拠点となっています。

さらに、平成11年の「ゲートシティ大崎」の竣工により、駅周辺は大きく変貌を遂げ、大崎は品川とともに東京サウスエリアのビジネス拠点としての性格を強めることとなったのです。

この大崎で、公団が組合員として参加した再開発事業の一環として、今年7月に誕生したのが「オーバルコート大崎ビュープラザ」です。

全348戸のうち公団賃貸住宅は104戸を占め、6月の募集では平均倍率約11倍と良好な結果を生んでいます。



賃貸住宅のお問い合わせは

総合募集センター津田沼案内所

TEL：047-478-3711

公団住宅の駐車場の問い合わせは

日本総合住生活（株）千葉支店

都市公団

ベイタウン商店街の秋祭り

恒例の商店街のお祭り。いつものように模擬店や楽しい企画がいっぱいです。「のりスタ」のドンファンもやってくるよ！

日時：9/29（土曜日）、午後1:00～6:00 場所：プロムナード

■隣町の真砂や磯辺ではもともとバス通園はなかったので、多くの幼稚園には自力で通うほかなかったようです。その点、ベイタウンは恵まれています。遠くの園もバスで通えるので、選択肢は豊富。自分の考えに合った園を選べます。でも、どの幼稚園がどんな方針なのか、わかりにくい——そんな悩みをお持ちの方には、ベイタウン在住の福永幸生さん（yfuku@alles.or.jp）が園の特徴などをまとめた「幼稚園・保育所情報」をおすすめします。

茂木俊輔（#7-305/T&F:211-1066/m38032@pp.iij4u.or.jp）

■今年の夏休みは安・近・短でしたので、ほとんど千葉県内での移動だった。普段、それほど気にもとめていなかったが、千葉県の広いこと！そして昔よく行っていた北海道に景色が似ていると感じた。という事は、まだまだというか、意外と自然が豊かだということだけれども、帰りに幕張のビル街が見えてきたらほっとしたのは、都会っ子の証拠かな？

金一剛（#3-220/T&F:211-0388/ikkim@xa2.so-net.ne.jp）

■ギャラリーキキの“キキ”は、エコールドパリの頃に“モンパルナスのキキ”と呼ばれたほど活躍したモデルの名前で、当時の多くの芸術家に、芸術的インスピレーションを与えることができた女性だそうです。たしか“魔女の宅急便”の主人公も“キキ”でした。映画の中で、キキと老婦人が、孫（老婦人の）の誕生日祝いの鯛のパイと一緒に焼くシーンがありましたが、あんな心のふれあいが、シニアクラブ“オアシス”でもあったらいいな♪と思いました。“オアシス”のこれからが楽しみです。

浜田貴代子（公園東の街/atmark@pop01.odn.ne.jp）

■先月号のWHO's WHO（金沢陽介君）で紹介した、打瀬小学校の校章デザインを巡る顛末について、その後、当時を知る人から「子どもたちのデザインを仕上げたプロのデザイナーもベイタウン在住の人」という指摘をいただいた。調べてみると、なるほど子どもたちの描いた作品10点から3点を選び、コンピュータを使って仕上げたのは5番街在住の百瀬さんご夫妻であることが分かった。百瀬さんは校章デザインへの協力を呼びかけたP.I.C.D.（当時ベイタウンの全戸に配布されていた学校だより）を見て、打瀬小学校へ電話をされたそう。百瀬さんの手でパネルに仕上げられた3点のデザイン案は打瀬小学校内に展示され、子どもたちの投票で最終的に金沢君の「打瀬舟」が選ばれたという。黎明期のベイタウンと打瀬小学校の熱気を伝える話として紹介した。詳細は打瀬小学校で出版した「二十一世紀の学校はこうなる」に書かれている。

松村守康（#10-612/T&F:211-6853/m-matz@mxq.mesh.ne.jp）

ベイタウンニュースではサポーターを求めています

お読みいただいているベイタウンニュースは「ニュースサポーター」の手で毎月幕張ベイタウンの全戸に無料配布されています。サポーターはベイタウンに住むボランティアグループで、本誌の発行される毎月第1土曜日の午前中、情報交換をしながらベイタウンニュースの折り込みや配布をしています。用のあるときや、気が乗らないときはお休みいただくのも結構という気楽な集まりです。みなさんの力をベイタウンニュースの発行に貸してください。お問い合わせは10番街 松村（TEL:211-6853/E-Mail:m-matz@mxq.mesh.ne.jp）、または上記編集後記に記載の各編集部員の連絡先まで。